

令和7年度 北海道・東北 体育・保健体育ネットワーク研究会 山形さくらんぼラウンド報告

テーマを「体育・保健体育の見方・考え方を働かせた授業づくり」とし、木原慎介先生や高橋修一先生の提言を元に、何を（具体的知識）、何のために（概念的知識）学ぶのか、それをどのように指導するのか等、より具体的な授業づくりにむけて、活発なグループワークがなされ、様々な気づきと学びの多い、実りある研修となりました。

今年度は県学校体育研究連合会からお声がけいただいたことで、参加者計28名（オンライン7名、参集21名）と、昨年の2倍近い参加者が集まりました。小・中・高、教諭・管理職・指導主事・学生など様々な校種が入り混じったグループで、それぞれの立場での現状や考え方、好事例を共有しながら、授業づくりに向けてより具体的で系統性を意識した話し合いができました。今回も岩手県から日帰りで参加（昼も夜も）していただきました。本当にありがとうございました。来年も今年のラウンド以上に、みんなでわいわい言いながら学び合っていけるような会になれば、山形の保健体育は進化していくと確信しております。

1 情報提供

東京国際大学 木原慎介先生より、『「体育・保健体育の見方・考え方」の見方・考え方』と題し、次期指導要領改正に向けた特別部会の内容を足掛かりに、教科保健体育が求められる見方・考え方について提言をいただきました。ハッとさせられたことは、教科保健体育の目標には、体育と保健の「見方・考え方」については、それぞれ記載されているものの、教科を貫く「見方・考え方」については記載されていないということ。今後は、カリマネの重要性を伝えつつも、木原先生から提言があった「見方・考え方」のように、保健体育科共通の「見方・考え方」を意識した指導の充実を図ることの重要性を強く感じました。

2 グループワーク

日本女子体育大学 高橋修一先生には「楽しさを深掘りするワークショップ」と題し、各領域でこそ味わえる楽しさを「知識」「技能」「思考・判断・表現」「態度」の各観点から深掘りしました。楽しさやその楽しさを遠ざける要因について、小・中・高の校種や年代が入り混じったことで、想像できないような考え方も飛び出し、目から鱗が落ちました。共生体育に向けて、体力や技能の程度にかかわらず、多様な楽しみ方ができる授業づくりのため、我々教師は小学校から高校まで、視野を広く持つことも必要なのかもしれません。下記はグループワークの成果の一部です。参集で4グループ、オンラインで1グループの計5グループの成果物ができましたが、紙面の都合上、独断で2つに絞りました。

【C班】校種() 「楽しさを深掘りするワークショップ」

領域	器械運動系	チーム
解説で示された「楽しさや特性」	器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じた多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。	「楽しさを遠ざける要因」 ・体が痛い ・恐怖心がある(怪我) ・羞恥心(できない) ・緊張感 ・回転のめまい ・理屈はわかるけど体が思うように動かない
この領域でこそ味わえる楽しさの「概念知」	・技が美しく身体そのものの表現。 ・自分の知らない体(できないこと)に気づく ・用具を使って上手にできるようになる ・非日常体験や成功体験(着地)ができる ・補助してもらえ、相手のことを考えて補助することができる	「楽しさを遠ざける要因」 ○友達との人間関係 ◎できる、できないが発生する。
知識	・理想の動き(楽しさの基準)を理解 ・自分の体の動かし方	技能 ・転がる、回転、支持する
	思考・判断・表現 ・自分の特性に合った動きを選ぶ ・相手のことを考えて補助している	態度 ・安全 ・よい演技を讃える ・挑戦 ・恐怖心に打ち勝つ

【D班】校種(小学校) 「楽しさを深掘りするワークショップ」

領域	体づくり運動遊び	チーム
解説で示された「楽しさや特性」	体を動かす楽しさや心地よさを味わい運動好きになるとともに、心と体の関係に気付いたり、仲間と交流したりすることや、様々な基本的な体の動きを身に付けたり、体の動きを高めたりして、体力を高めるために行われる運動である。	「楽しさを遠ざける要因」 ○友達との人間関係 ◎できる、できないが発生する。
この領域でこそ味わえる楽しさの「概念知」	○体ほぐし ・友達と一緒に楽しむ(伝承遊び) ・心がほぐれる、専門的な技能がない、「できる、できない」がない ◎多様な動き ・自分の得意な動きがわかる。・動きのレパートリーが増える。→運動の組み合わせ(中学年への接続)	「楽しさを遠ざける要因」 ○友達と協力したり動きを合わせたりする。 ◎試行錯誤しながら動く。
知識	○やり方 ◎やり方(コツ)	技能 ○集団で行う運動。 ◎基礎的な動きをすることができる。(回る・立つ・投げる・とる・歩く・跳ぶ・押す・つかむ)
	思考・判断・表現 ○動きや器具を選択する。	態度 ○友達と協力したり動きを合わせたりする。 ◎試行錯誤しながら動く。



3 まとめ

最後に、昨年度も掲載しましたが、高橋修一先生からのありがたいお言葉で締めたいと思います。部活動中心に強化指導のスペシャリストだった保健体育教員も、部活動の地域展開も1つのきっかけにして、教科指導のスペシャリストになっていきましょう。

